

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	15	実施計画番号	90
事務事業名	交通安全対策事業		
個別事業名		事業開始年度	-
担当課名	生活環境課	事務の種類	自治事務
根拠法令等		関連事務事業	
背景や経緯等	交通機関の発達とともに交通事故が増加したため、これを抑止し、交通の安全対策を実施する。		
事務事業の目的	歩行者や自転車利用者の安全を確保する。		
実施状況	町内会等から、道路照明灯、ガードレール、カーブミラー、警戒標識などの交通安全施設の要望を取りまとめて整備する。		

### 【人件費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
正職員	従事者数(人)	2	2	2
	活動日数(日)	24	24	24
	人件費(千円)	1,728	1,728	1,728
正職員以外	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

### 【事業費の推移】

		22年度実績	23年度実績	24年度計画
事業費合計(千円)		6,921	3,212	6,390
うち一般財源		3,212	3,212	6,390
うち国県支出金		3,709		
うち地方債				
うちその他				

### 【指標】

活動指標	活動指標名①	交通安全施設数			
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
	カーブミラー、ガードレール 道路照明灯等設置数	箇所	35	16	20
	活動指標名②				
	計算式等	単位	22年度実績	23年度実績	24年度計画
成果指標	成果指標名①	事故件数(前年度以下を目標とする)			
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度
		件数	目標値		
			実績値	332	310
			達成度(%)		
	成果指標名②				
	計算式等	単位	22年度	23年度	24年度
		目標値			
		実績値			
		達成度(%)			

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	15
計画No	90

## 【担当課による検証】

ポイント		検証	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 <b>0 / 4</b>	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合しているか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		交通安全施設の要望は例年多数あり、公共の施設として、市が管理するのは妥当である。	
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 <b>0 / 6</b>	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		道路照明灯、カーブミラー等の交通安全施設は、交通事故防止に大きな効果がある。	
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 <b>0 / 6</b>	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		町内会要望等の取りまとめ、現地調査、実施箇所決定、工事依頼、これらの補助金事務の手順が明確である。	
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	受益者負担適正化の余地 <b>0 / 4</b>	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		設置箇所は、重大事故発生危険性、道路の狭さ、公共性等の観点から総合評価により決定している。	
<b>現在の適性</b>					<b>20 / 20</b>	<b>改善の余地</b>	<b>0 / 20</b>

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の平成25年度の方向性

⇒

現状のまま継続

### 方向性の理由

交通安全施設は、交通事故の防止に大きな効果がある。

### 今後の具体的な取組み方策と狙う効果

町内会等の要望を数多く収集し、優先順位の高い箇所から順次設置し、交通事故の防止を図る。